



令和6年度 高雄日本人学校

愛河

校訓 「高雄の子ども」 たくましい子 考える子 思いやりのある子



学校だより12月号②

令和6年12月20日

文責 校長 堀山 知基

「本物」にふれた12月 「高雄でも、こんなに寒い日がある！」と思わせるような肌寒い1週間となりましたが、本日20日(金)、区切りの冬休み前集会を迎えました。今年1年間を振り返ってみると、子供たちの日頃の各教科の学習への取組はもちろんのこと、「愛河11月号」でもお伝えしたとおり、体験活動や交流活動を通して、実際の人や物、文化や自然、歴史にふれ、大いに学びを深めることができました。この12月だけでも、高雄師範大附属小交流会、芸術鑑賞会、スポーツフェスティバル、職場体験、航空教室と数多くの体験活動が実施されました。この中でも特に、本校の卒業生でもある工藤千夏さんが所属されている和太鼓グループ「勁太鼓」をお招きしての芸術鑑賞会は、子供たちの心の中に強い印象として刻まれたようです。「太鼓の強い音がお腹の中まで響いてきて、びっくりした。」「たった三人だけでの演奏なのに、迫力がすごかった。」「あんな風に太鼓が叩けるようになりたい。カッコよかった!」子供たちの感想からも、いかにすばらしい和太鼓の演奏であったかが伝わってきます。この芸術鑑賞会の直後の中学部の和太鼓練習は、中学校職員曰く「いつもより気合いが違った!」とのことでした。プロの演奏にふれ、感化された生徒たちの行動が変容したのでしょうか。まさに、「本物」がもつ力の凄さですね。改めて「本物にふれる、実体験する」ことの大切さを実感しました。今後も子供たちの知識や心を豊かにする体験活動を推進してまいります。

さて、今年も残すところあと11日です。新しい年も本校の教育活動へのご協力をよろしくお願いたします。ご家族皆様で、どうぞよい年をお迎えください。



芸術鑑賞会



職場体験



スポーツフェスティバル



附属小交流会



航空教室